



妊娠中は手洗い励行、生ものに注意 TORCH 症候群を解説

妊娠中に初めて感染することによって、胎児の異常または重篤な母子感染症を引き起こす恐れのある疾患が、最近また注目されています。トキソプラズマ症(T)、B型肝炎ウイルスやEBウイルスなど(Others)、風疹(R)、サイトメガロウイルス(C)、単純ヘルペスウイルス(H)などで、その頭文字から TORCH 症候群と呼ばれています。これについて、当科の鈴木美保医師が徹底解説します。

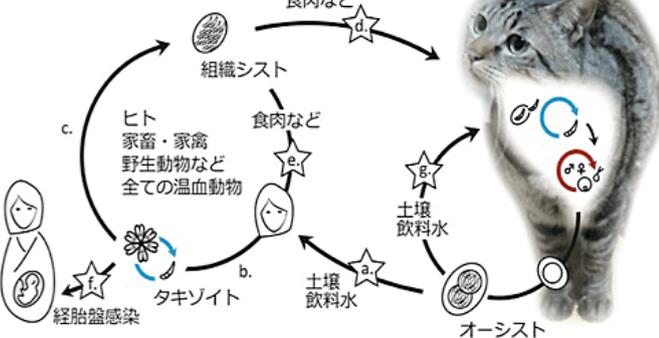
トキソプラズマ Toxoplasma

生肉やネコ科動物の糞便中にいる虫体を経口摂取することで感染します。猫や成人が感染しても、大半は無症状です。しかし妊娠中に初めて感染すると胎児に先天性トキソプラズマ症を引き起こすことがあります。妊娠中・後期の初感染は胎児感染率(31週以降で60~70%)が高いものの無症状や軽症が多いとされます。一方、初期(~14週)は胎児感染率が低い(10%以下)ものの、重症の症状(流産、脳内石灰化、水頭症、脈絡網膜炎→視力障害、精神発達遅滞)を起こすといわれています。

採血検査で抗体があるか検査できますが、通常の妊婦健診では検査しておらず、日本の妊婦さんの95%は抗体を有していないと報告されており、注意が必要です。

予防法としては、十分加熱したものを食べる、調理器具を消毒することが重要です。またネコ科動物の糞中の虫体は、1年以上感染能力があり、通常の消毒薬は無効なため、子供との土いじり、ガーデニングでは手袋をし、手洗いを励行することが大切です。

トキソプラズマの生活環



風疹 Rubella

感染者の咳やくしゃみにより唾液や鼻水が飛び(1~2m)、これを吸入することで感染(飛沫感染)します。従来は子供に多い病気でしたが、近年はワクチン接種を受けていない20~40歳代の男性で発生がみられます。特に今年は流行しており、妊婦が妊娠6カ月までに初感染すると先天性風疹症候群を引き起こす可能性があるため、注意が必要です。症状としては、感染から2~3週間後に咳、発熱、発疹、リンパ節腫脹を生じますが、10~20%は無症状です。しかし、先天性風疹症候群は重篤な症状を引き起こします。先天性心疾患と白内障(妊娠3ヶ月以内の感染で発生)、難聴(6か月までの感染でも出現)が3大症状で、この他にも網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育発達遅滞、小眼球などを認めます。

抗体の有無は初回の妊婦健診で検査します。抗体価が低い場合は、人混みへ行かない、手洗いやうがいの励行、マスクの使用などに気をつけて下さい。出産後は授乳中でもワクチン接種が可能ですので、次の子のために抗体をつけておくことをお勧めします。また、妊娠希望の方で抗体価が低い場合はワクチン接種が勧められますが、この場合は接種から2か月間の避妊が必要です。

サイトメガロウイルス Cytomegalovirus (CMV)

接触感染(尿、唾液)、性行為感染(子宮頸管・粘液、膈分泌液、精液)、母子感染(母乳、子宮頸管・膈分泌液)、輸血・移植感染(血液、移植臓器)と様々な体液を介して感染します。症状はほぼなく、稀に発熱や倦怠感があるのみです。妊婦の感染により胎児に先天性CMV感染が起きると、低出生体重児、肝脾腫、小頭症・脳内石灰化、紫斑・血小板減少、貧血・黄疸、網膜症などを生じ、精神発達遅滞、運動障害、難聴などの後遺症を残す可能性があります。先天性CMV感染児は1/300人の頻度で出生しており、日本では年間1000人が後遺症を残していると報告されています。

妊婦の抗体保有率は減少傾向で、2009年の報告では妊婦の抗体保有率71%でした。ただ、感染しないと断定できる検査方法がなく、通常の妊婦健診では抗体検査を行っていません。また、実用化された治療方法もないので、予防が重要です。

感染源として最も注意が必要なのは、子供の尿や唾液です。おむつ替えや食事介助の際など、尿や唾液のついた手で目鼻口を触った場合に感染します。このため、感染予防のためには、尿や唾液に触れた後は20秒位手洗いするようにします。また6歳未満の子の口や頬にキスしない、子供と食事を共有しない、保育士さんは年長組の子供を担当する等が予防策に挙げられます。

単純ヘルペスウイルス Herpes simplex virus (HSV)

性器ヘルペスの原因となるウイルスです。性器ヘルペスには単純ヘルペスウイルスに初めて感染して症状がでる場合(初感染型)と以前に感染していたウイルスが再発して症状がでる場合(再発型)とがあります。一般的には初感染型で症状が激しくなります。妊娠中に単純ヘルペスウイルスが胎児に移行し、児に影響を及ぼすことは極めて稀です。しかし、分娩時に性器ヘルペスの病変があると、産道で感染し、新生児ヘルペスを発症(初感染で約50%、再発型で0~3%)することがあります。新生児ヘルペスは皮膚だけに症状が出ることもありますが、全身の臓器に感染が及ぶと新生児死亡や脳障害が起きることがあります。

分娩が近づいた時期に性器ヘルペスを発症した場合(初発型・再発型ともに)には速やかに抗ウイルス剤による治療を開始し、病変の消失を図る必要があります。しかし、分娩時に病変が消失していない場合、1か月以内の初感染や1週間以内の再発の場合には帝王切開を行い、児への感染を防ぐようにします。

まとめ トキソプラズマやサイトメガロウイルスの感染を防ぐには次の2つが大切です。まず手洗いの励行です。特に土や小さい子の唾液に触ったあとは十分に洗いましょう。トキソプラズマといえばネコがキーワードですが、新たに飼ったり外飼いしたりせず、糞の処理を他の人に任せれば神経質になる必要はありません。

2つ目は生肉、生ハムなど生ものを食べないことです。妊娠中は火の通ったものを食べることを基本としましょう。

TORCH 症候群の患者さんの会のHPに妊娠中の注意点などが詳しく出ており、とても参考になります(<http://toxocmv.org/>)。